

## 論文

# eラーニングの「反転授業」をベースとした 「協同学習」の試み

——「気づき」から「自律学習力」への戦略——

中崎温子・水木一恵・都築順子

### 要旨

2012年度よりスタートした8大学による「大学間連携共同教育推進事業～学士力養成のための共通基盤システムを活用した主体的学びの促進」は、4年目の歩みを迎えている。プロジェクト初期には、その一環として日本語eラーニングをシステム化したのであるが、これまで、種々の働きかけにもかかわらず、学生の主体的な活用に至っていなかった。そこで、その壁を破るべく今年度新たな工夫を試みた。その結果、昨年度末の8%の活用実態と比べ、7月の1回目の試みで63%の飛躍を見た。本稿では、まず、「自律学習」の意義と、それと関わって、日本語学習の汎用的な理念とそれを具現化したeラーニングの設計がどのようなものであるのかを記し、それを踏まえた上で、今年度の仕掛け（全員履修の初年次教育「学習法」における「反転授業」と「協同学習」の結合）に至ったいきさつや方法、「協同学習」がもたらした効果について、分析・考察をする。基礎資料としたのは、「価値の自己検証」のアンケートである。最後に、取り組みの一定の確信を得られたことによって、学生の「気づき」が「自律学習力」として結実するために、今後も、いかに教員側の視点と工夫が戦略的に必要であるかを導く。

キーワード：日本語eラーニング、自律学習、反転授業、協同学習、価値の自己検証

## はじめに

「大衆化」「全入時代」「学力格差」「基礎学力不足」「学生文化の多様化」等々、大学を取り巻くこのような語句がメディアだけではなく学術誌上でも踊るようになり、さらに、日本語力の面で言えば、この現象に、学生の活字離れと、高等学校までの「ゆとり教育」政策での作文指導の時間の削減とが、低下に追い打ちをかけた。学生の語彙不足と表現力低下が顕著になってきているのである<sup>1)</sup>。言葉との「出会い」(インプット)が希薄になり、その表出(アウトプット)の機会もまた極端に減退しているといえる。

2012年度にスタートした8大学<sup>2)</sup>による「大学間連携共同教育推進事業～学士力養成のための共通基盤システムを活用した主体的学びの促進～」(以下、「大学間連携事業」)は、このような背景を負って、基盤科目のeラーニング等のLMS(Learning Management System 学習管理システム)を効果的に機能させることなどを主軸とする多層的な5年間のプロジェクトを提議した。本学地域政策学部はこの間、初年次教育科目「学習法」における少人数教育の有用な側面として、当然に対面教育を重視しつつも、連携事業の牽引の一員として編集・作成に関わった日本語eラーニングや、数学・英語の基盤科目においても、eラーニングを活用する取り組みを重ねた<sup>3)</sup>。

論述文の処方箋に関しては入学後の教育課題であるが、文章作法のルールの確認や、ある程度の評論を読みこめる語彙量とリテラシー力は大学初年次に必要な基盤である。それらは、中等教育までの教育の質と量(無論、詰め込み教育に諸手を挙げて賛同しているわけではないが)や読書習慣と深く関わっている。それゆえ、「日本語eラーニング教材」は、(卒業後までを展望しながらも)およそ6～7割の部分を初年次の学習対象(1年次終了まで)とした(資料(1))。このことを念頭に置きつつ、本稿では、自律学習の意義、それと関連させた日本語eラーニングの設計、試行からの学生の取り組みの様子等に言及し、今年度の新たな仕掛けである「反転授業」をベースとした「協同学習」の第1回の結果(7月)を分析する。その上で、さらなる「自律学習力」向上に向けての戦略を考察するものである。

## 1. eラーニング教材活用における「自律学習」の意義

一般にeラーニングは、IT時代の学生にとってはとりわけ、いわば、「場所と時間を選ばないデバイス」としての「新鮮さ、自由度、手軽度、個人差への対応度、振り返り性、繰り返し性」などの学習メリットが実感できるツールである。この章では、更なる有用性として、日本語の汎用性とスキル能力を育成することの関わりに着目し、日本語eラーニング教材を取り込むことによる「自律学習」の深化の可能性について記述したい。

### 1.1. 「自律学習」(autonomous learning) が目指すもの

自律学習とは何か。関連から少し拾ってみよう。『日本語教育重要用語1000』(国立国語研究所1998)には、「自律学習」(autonomous learning)は学習者自身が自己の学習に主体的に関わり学習を孤立させず、教授者や教材や教育機関などといったリソースを利用して行う学習、とある。『新版日本語教育辞典』(2005)では、「(自律学習能力を)自分で自分の学習の理由あるいは目的と内容、方法に関して選択を行い、その選択に基づいた計画を実行し、結果を評価できる能力」としている。いわば、「自律学習」とは、学びのための「学び方」、学習を主体的にコントロールする力やストラテジーの自己決定力を身につけることに他ならない。「自律学習力」を確立することは、即ち、自立した社会人として自己の課題に対峙できる力を備え得ることであると言えよう。

従って、自律学習は、学習者の内発動機に負う部分が多い。いわゆる「自習をさせる」「宿題を課す」こととは異なる。そのため、eラーニング教材を自律学習として用いる場合は(その仕様から当然、自学自習教材としても使えるわけだが)、学生個々が主体的に動いているかどうか成果の尺度となる。

eラーニングは、教授者や教育機関に管理されシステム化されていることから、その軌跡と結果に対し管理者もアドバイスを与えたり、振り返りを促したりして、グループや個々の評価をすることができる。また、同一教材として共有・協同したりする中で学習成果を得られることから、学習を孤立させず、提供(管理)者との、あるいは、学習者間でのコミュニケーションを成立させ、さらなる支援へと接続させることができる。

以上のことから、「自律学習力」をつけるためにeラーニング教材を活用することは、先の「TPOを選ばないデバイス」での利点同様、理にかなっていると考えられよう。

### 1.2. 「自律学習」を誘発する「気づき」

「自律学習」を動機づけさせるには、まず、学生個々に、何が難しいのか、何が弱いのか、何ができているのか、何が課題なのかを、データ知見で明確に気づかせる必要がある。個々の「気づき」が否応なく自覚されることによって「自律学習」の一步が始まる。

大学間連携事業では、入学時早々に基盤科目の「気づき」のためのプレースメントテストを実施している<sup>4)</sup>。そのおおよその範囲は資料(2)のとおりであり、eラーニングでいえば(後述する資料(3)の)レベル1～3に準拠する。

プレースメントテストは、大学生活をスタートするにあたり自分の立ち位置を知るためのものである<sup>5)</sup>。結果は、初年次教育科目「学習法」の時間を通して一人ひとりのコメントと共に返却され(「表1」)、今後のeラーニングの取り組みや2年次4月の「到達度テスト」までの取り組みへとつなげるよう指導している。因みにプレースメントテストも到達度テス

トも、本学部の平均点は昨年と今年で8大学の平均あたりの50点台で推移している。

表1 個票例とコメント<sup>6)</sup>

	得点	* 「あなたの文法力は、大学での学習を始めるのに必要なレベルに達しているのに、専門的な学習に備え、さらに日本語力を上げるための教材に取り組みましょう。一方、漢字力に関しては、必要なレベルには達していないので、少し基礎的な学習が必要です。また、語彙力、短文の読解力に関しては、基礎からの学習が必要です」
漢字	15/25	
語彙	13/50	
文法・敬語	8/10	
短文読解	8/15	

上記のコメントを指示された学生は、この後、日本語eラーニング教材では、文法分野で4レベル以上から、漢字分野で2レベル程度から、語彙・短文読解分野は1レベルから始めるよう診断を得る<sup>7)</sup>。このように、自らの立ち位置が総合的に測定され、また、理解度の分野別データが客観的に出ることによって、次に何をどの手順ですべきかという「課題」の指針が示される。個々が学習の理由づけ、方向づけをすることが容易であるし、成果を8大学の同一プラットフォームの中で発展的に問い直すこともできる。

## 2. eラーニング日本語教材の設計

この章では、母語話者にとっての日本語が「生きる力」とどう関わり、それを踏まえての「汎用性とスキル能力」への日本語eラーニング教材の対応（作成意図や作成の内容）の仕方がどのようなものであるかについて触れる。

### 2.1. 作成の理念：日本語力の汎用性

『大学間連携事業報告』(2014)の「資料10日本語 e-learning 学習教材について」では、以下のように記した<sup>8)</sup>。

1. 日本語力は「学士力」の礎となる。大学の学びの本質と深く関わって、論理的な思考力、批判力、問題発見と解決のための力、自立的に行動する力等々の礎となる。
2. 日本語は生涯にわたって身に付け、つき合っていく言語でもある。生活のための言語であり、情報の認識、読み取り、蓄積に不可欠な言語である。また、コミュニケーションのための認知、解釈、発信のメカニズムに必携の言語であるし、学習での理解力、リテラシー力の礎となる言語である。仕事でのパフォーマンス（説明、説得、プレゼン等）にとっても最も必要な言語である。即ち、生きていくための言語、豊かな人生を送るための教養としての言語、人間関係をつくり上げていく

ための言語といえる。

さらに、日本語力を拡充するための「今日的意義」に関しては、次のように言及している。一部簡略化して表記する。

世界に向けては、①グローバル社会における地球市民としての「人権感覚」「環境意識」「平和の心」を磨き世界に向けての発信力をつけること②多文化共生の現実、表現しないと伝わらない異質の他者と向き合う時代であることから、異文化理解力、多様性への寛容を培うために、言葉に力を持たせること。個々の内実に向けては、①社会や歴史への関心の薄さを克服し、客観的に自分を洞察する力、捉えなおす力、折れない自分作りと他者性を思いやる心を持つため、読書量や思考力の低下を食い止め、自立した読み手であること②家族関係の変質やコミュニティの崩壊による分断された個であることから抜け出し、かつ、激しい世代間格差などを乗り越え自己実現に向けて自分を表現しきるために、知識や教養を身につけ、汎用的な語彙力や待遇表現を含む柔軟で広義のコミュニケーション力をつけること。

初年次プログラム「学習法」科目での「eラーニングガイダンス」で学生に配付する実習用パンフ『日本語eラーニングのススメ』でも、日本語力の汎用性についてわかりやすく取り上げている<sup>9)</sup>。全体構成に関しては資料(3)<sup>10)</sup>を載せている。

この理念を踏まえて、日本語eラーニングの作成の視点(意図)である「世代を超えてのコミュニケーションに役立つ(語彙をはじめとする)社会参画のためのスキル力」について、次に論及する。

## 2.2. 作成の意図：知識の習得と運用スキル

変化に富み、複雑な社会における人間関係構築のスキルを培うために、日本語eラーニングは、次の諸点を押さえて作成した。

- ① 単に知識を問う問題ではなく、運用に必要な自然な発話形式(文、対話などで場面や文脈)を設定している。例えば、「あながち」「やぶさか」は耳にしたことがあるとしても、それを用いて運用できるかどうかは問われなければならない。同様に、単語の認知テストではないので、文や文脈から語の適切性を判断させる点に留意している。

例：私の知識なんてしょせん【       】ですよ。

1 一夜限り      2 一時しのぎ      3 付け焼刃      4 焼けぼっくい

- ② 「短文読解」分野は、人文分野だけでなく社会科学や自然科学，基礎の英語や計算問題なども取り入れている。
- ③ 得手不得手が認識し整理できるように分野毎に学習小テーマを設定している。語彙は品詞や機能別に提供したり，漢字に関しては「訓読み」「音読み」を意識させたり，同音異義語，略語等々，テーマ別に身につけやすいようにした。必ずしも難易度でのみ配列しているわけではない。
- ④ 自律学習による学習の拡がりと継続性を目標とするため，飽きさせないよう発問のパターンを複数に工夫している。
- ⑤ 全1400問の各レベル20問において，10問ずつの「確認テスト」を幾通りにも設定し100%正解した時点ではじめて次のレベルへ進むように設計している。
- ⑥ 必要に応じて，難し目の問題に「解説」をつけたり，「表記・表現・文法」分野には「解説」の他に8つのレベルで「テキスト」（1ページ程度の参考書）を入れている。

PC やスマートフォンを使っての選択肢を問う問題形式であるゆえ，易きに通じないことを旨とした。限られたレベル数の中で，低いレベルにも多少歯ごたえのあるものを入れて，よくできる学生にもそれらを取穫物としてインプットさせ次に進ませるようにした。

### 2.3. 作成内容の具現化

ここでは，上記②の具体例と，③と⑥に関わっての3例を紹介する。

（「短文読解」<sup>11)</sup>レベル3）【問題】 次の文章を読んで，(6)～(10) に答えてください。

花があればそこには草がある。(a)，日本の「草」は主として ① (雑草) の意味で，イメージが悪い。繁殖力が強く雑草が多いからだ。これに対して，英語の ② は良いイメージを持つことが多い。柔らかい草が多く，雑草はあまりはびこらないからだ。(b)，イギリス南西部の牧草地は，数十センチも掘れば石灰だという。野菜はほとんどとれない。放牧場となり，刈り込めば ③ (芝生) になる。(c)，Green grass grows after rain. の表現は，④ が繰り返されるので，子音連結の練習には最適だ。

(6) (a) に入る接続詞はどれでしょう。

1. しかし    2. なお    3. また    4. そこで

(7) (b) に入る接続詞はどれでしょう。

1. しかし    2. なお    3. また    4. そこで

(8) (c) に入る接続詞はどれでしょう。

1. しかし    2. なお    3. また    4. そこで
- (9) ①～④に入る英語の組み合わせは次のどれでしょう。
1. ① weed    ② gr    ③ lawn    ④ grass    2. ① grass    ② lawn    ③ weed    ④ gr
3. ① weed    ② grass    ③ lawn    ④ gr    4. ① grass    ② weed    ③ lawn    ④ gr
- (10) 二重線の漢字「音」の読み方はどれと等しいですか。
1. 本音    2. 母音    3. 音韻    4. 物音

(「漢字書き」レベル9 外来語の略語) 【問題】IAEA の役割は今後ますます重要になるだろう。

- 1 情報管理機関    2 産業発展機関    3 国際原子力機関  
4 インフラ整備機関    5 国際学術教育機関

(「語義」レベル3 副詞) 【問題】□□ 「ペンキ塗りたて」のベンチに座ってしまった。

- 1 ふと    2 とうとう    3 あわや    4 うっかり

【解説】「ふと」「うっかり」「つい」など用法が似ている。「ふと = by chance, accidentally は、そのように考えたこともないのになぜかしてしまった」。例えば「PCに夢中になっていて、ふと気づくと夜中になっていた」。「うっかり = careless は、不注意で何かしてしまった習慣的ではない失敗」に。「つい = by habit, without thinking は、しないほうがいいことを我慢できずにしてしまったり習慣や癖のように出てしまう」ことに。例えば、「本を読み出すとつい夜更かししてしまう」。

(「四字熟語」レベル10) 【問題】「君のところの新しい所長は□□で評判がいいね」「はい、お陰さまで得意先の方が社に対する好感度がぐんと上がりました」

- 1 片言隻語 (へんげんせきご)    2 傲岸不遜 (ごうがんふそん)    3 八面玲瓏 (はちめんれいろう)    4 喧喧囂囂 (けんけんごうごう)    5 甲論乙駁 (こうろんおつぱく)

【解説】「片言隻語 (へんげんせきご)」ちょっとしたことば。「傲岸不遜」おごり高ぶる様子。「八面玲瓏」どの面から見ても曇りがなく透き通っていることから、心が清らかで全くわだかまりがないこと。「喧喧囂囂 (けんけんごうごう)」多くの人が口やかましく騒ぎ立てること。喧喧諤々 (けんけんがくがく) は、喧喧囂囂 (けんけんごうごう) と侃侃諤諤 (かんかんがくがく) とを混同した語で誤用。「甲論乙駁 (こうろんおつぱく)」議論が活発なあまり、まとまらないこと。



間違い易いものを取り上げ、「解説」や「テキスト」からも知識を拡充できるようにしている<sup>12)</sup>。「生きる力」に関わる基盤を築くための一助として活用してほしいと考える。

### 3. eラーニング自律学習の3年間の歩み

大学間連携事業の実質的な開始は2012年度の8月からであった。『平成24年度事業実施報告書』<sup>13)</sup>には、eラーニング関連部分に関し次のように記されている。

「共通プログラムによる学修支援——到達度テストの結果に基づき学生自らに学習計画を立てさせ、自分の学ぶべき内容をeラーニングで主体的に学習させる取り組みを試行する。大学間共通のプログラムを通じて他大学の学生の学びの状況も参照することで、意識を横方向へと拡げることも可能にする。特に、検証は新設学部がキャリア教育対策を迎える愛知大学をモデル校とする」

試行を経て、プレイスメントテストは2013年度から、到達度テストは2014年度から連携8大学で実施した。日本語eラーニング教材に関しては、地域政策学部立ち上げ以前から千歳科学技術大学（「大学間連携事業」の本部校）との共同研究でコンテンツ作成に取り掛かっており、2012年度の「学習法」（通年）の秋学期の授業で早々にガイダンスを行うことができた。しかし、主体的にeラーニングを継続する学生はほとんどいなかった。これに関しては中崎（2014）で分析している。2013年度も、活用実数は本学部でわずか7名と低迷した。

隙間時間を有効に使えるeラーニングを自律的に活用させることは有効な手段の一つである。だが、待つだけでは学生は動かない。学生は、プレイスメントテストで知識力の乏しさに「気づいて」いる。にもかかわらず、学生の内発的動機になかなか結びつかない現実に直面したのである。

何らかの改善策が打たれねばならない。先述の『日本語eラーニングのススメ』に加え、日本語力実態の危機感をつのる内容で『日本語eラーニング活用パンフ』（資料(4))を作成し学部生全員と他学部教員に配布した。同時に、「やらされ感」が先行しない程度の緩やかな義務化の形での仕掛けとして、2014年度では『学習法2014』テキスト内に「進捗表」と共に学生が記入する「(学習)計画表」を織り込み、秋学期にはeラーニングの「進捗度」を測定する小テスト（日本語5分、数学10分）を実施することを告げた。しかし、2回の日本語「進捗度測定」の結果は、以下の図1と2が示すとおりであり、ここでもeラーニング利用者数は充分とはいえなかった。縦軸は人数、横軸は25問中の正解数。受験総数は222



名である。

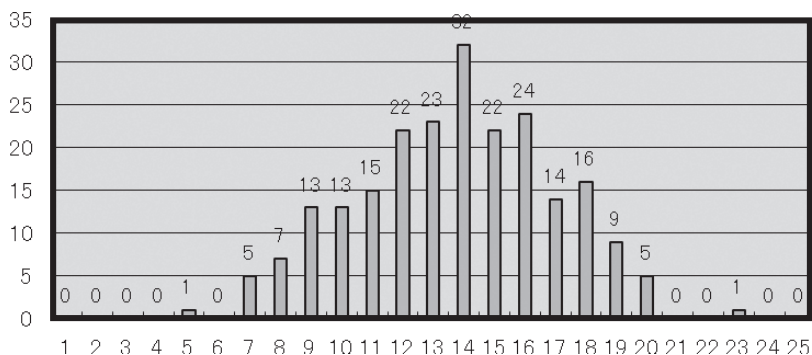


図1 第1回日本語進捗度測定分布図

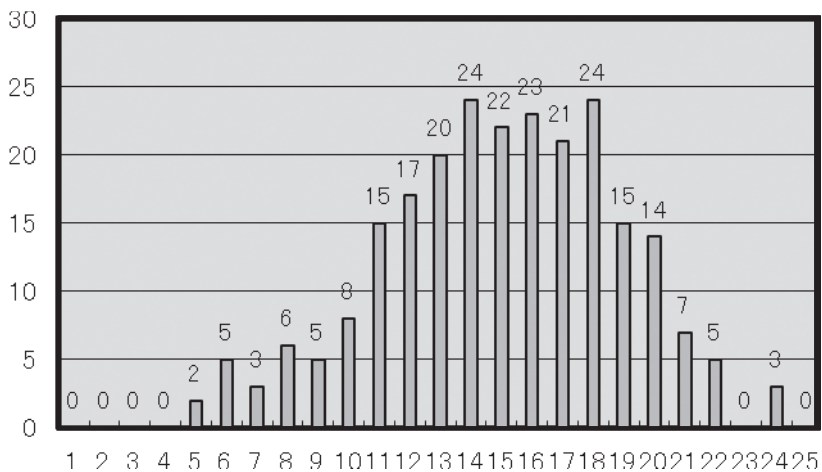


図2 第2回日本語進捗度測定分布図

第1回（漢字読み書きと四字熟語の各レベル7まで）と第2回（語義，成句，文法の3分野の各レベル7まで）に渡って，それぞれ420問から出題した。eラーニング教材を完全にマスターさせる趣旨から同じ問題を出題し，期間を充分置いている。測定時間は25問を5分と短い，学習を経ていればそれほど困難な測定テストではないはずである。25問のうち90%の22問以上定着（正解）する学生が3割程度占めてほしいという期待をもったが，図に示すように遠く及ばなかった。分野別にはマスターしているが3分野全てには手が届かなかった学生も多く，Time Management（計画）力にも課題があることが示された。データはクラス別に学生個々の全問の結果が表示され，15名の担当教員に事後指導をお願いして

いる（2015年度も秋学期に実施をする予定である）。学生の自律性を充分引き出すにはまだ弱いことが明らかとなった。

#### 4. 「反転授業」をベースとした「協同学習」の試み

さらなる工夫として何が考えられるか。『学習法2015』の作成にあたって、かねてより温めていたeラーニングの「反転学習」をベースとした「協同（グループ）学習」を、日本語で3回、数学SPIで2回設定した。

実施に関しては合同授業で学生に説明し、クラス担当教員にもFD会議を皮切りに4月の早い時期から詳細を数回に分けて綿密に伝達し教授会の場でも「手順」の理解を求めた。

春学期の第1回は7月初旬の「学習法第13講日本語eラーニングの活用（1）」である。教員の役割は、教師役学生に6月中に自作問題を準備させ、当日は各グループの活動の「見守り役」に徹し「評価票」をつけることである（資料(5)）。学生には、毎回の取り組み後『『価値の自己検証』アンケート』を5段階でマークさせる。アンケートタイトルを「価値の自己検証」としたのは、キャンパス内外に多くの「価値」がころがっているにもかかわらず、とりわけ学修の面で掴みきれていない現実を直視させ意識させるためである。

##### 4.1. 知識の定着のステップ：反転授業

eラーニングは「反転授業」に適している。全員が課題範囲を予習していることを前提とした。また、協同作業という形態のため、学習が個人で完結するのではないことから、これまでと比して動機付けの高まりも期待した。「価値の自己検証」の段階評価は、「5」＝充分できたと思う「4」＝おおよそできたと思う「3」＝まあまあ普通程度にできたと思う「2」＝ほとんどできなかったと思う「1」＝全くできなかったと思う、である。下記の%数字は、「5」と「4」を合算したものである。

表2 「自己の取り組みの価値」 n = 264

1	予習の度合いはどうか	63%	(2014年8%) <sup>14)</sup>
2	理解度はどうか	70%	
3	新たな知識の獲得（広がり）はどうか	82%	

主観評価とはいえ、項目1の63%は、昨年度の8%という結果（別様式のアンケート「日本語力拡充のために日本語eラーニングを利用しているか」と比べ格段の進歩といえる。また、「反転授業」に加え、教師役の自作の問題の作成条件に「eラーニング中で使用されている選択肢や解説の中の語のみを用いなければならない」を挙げた（「数学」は知識問題

ではないためこの限りにあらず)。市販の問題集からの写しでは意味がないことと、eラーニングは四字熟語の一部以外は4～5択問題のため、学生は正解以外の4～5倍の語句に検討を加えて問題作成をすることになる。グループ内の生徒役も教師役が準備した創作問題の語句に接することになる。その結果として、表2のアンケート項目の2と3で必然的に高い成果を生むことができたのではないかと分析する。

#### 4.2. 知識の統合と活用のステップ（教師役活動）

それぞれのクラス（18名平均）は4つのグループに分け、グループ毎に毎時、全員に学習項目毎の教師役を割り当てた。教師役が生徒役メンバーと共に学習内容を深化させるピア活動の試みである。グループの4人（組）の教師役は、毎時の課題範囲の4分の1ずつを事前に割り当てられ、それぞれが自作問題を事前に用意し、当日15分の学習活動を主導し次の教師役にバトンタッチするという設計である。計60分の取り組み後、「価値の自己検証」と発表形式で振り返りをさせる。

テキストでは、「活動の意義」「実施までの流れ」、参考のための「問題作成例」などを予め示している。「協同学習」の中に教師役を設定したのは、図3の‘Teaching Others’にヒントを得ての判断である。「働きかけの価値の自己検証」結果は表3のようであった。

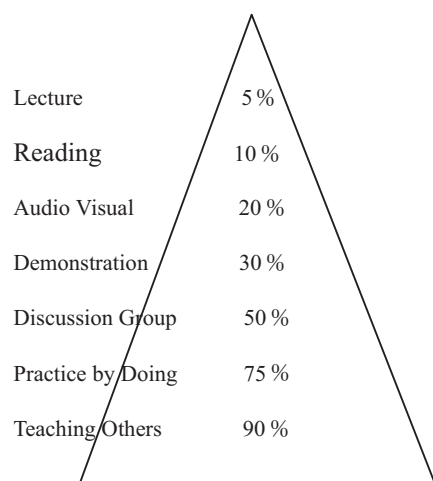


図3 National Trainig Laboratories の平均学習定着率調査

表3 「働きかけ（教師役活動）の価値」 n = 264

4	(問題を作成したことによって) 知識の定着度はどうか	79%
5	(問題の構成の試行によって) 知識の統合（これまでの知識を整理し総合的に組み立てること）度はどうか	61%
6	(メンバーの理解度への配慮のために) 分かり易く説明することの責任は果たせたか	41%

ラーニングピラミッド<sup>15)</sup>が示すように、「教える」ためには自らの理解を確立させなければならない。「教える」ことによって学習定着率の実効性が証明されているわけである。結果、表2のアンケート項目2と表3の4の項目において、学生は「自己と他者に対する二つ

の責任」を果たしていることがうかがえる。5の項目に関しては、太田・多鹿（2000/201）は『記憶研究の最前線』の中で、子どもから大人にかけての記憶の発達的变化の解明で既有知識が豊かであればあるほど新たな情報を既有知識に関連づけて覚えることが容易であること、そのためには既有知識が十分に活性化されると促進効果が高いこと、既有知識を援用して推論を行ったり、求める情報の検索に役立て自己調整（統合）に結びつけることができること等に言及しているのであるが、そのような効果が期待できたということではないだろうか。また、項目6が41%と比較的低かったのは、先にも述べたように初めての教師役で不慣れであったことを物語っていると思われる。2回目以降に改善が期待できると考えている。

#### 4.3. 知識の外化のステップ：ピア活動

第1章で、自律学習の特性の一つである「学習を孤立させない」ことを取り挙げた。今回の取り組みでも、グループの学生が互いに教師役、生徒役となりあうピア活動の活動を体験させた。共通の教材を事前に学習し、教師役が知識の拡充をねらいとする自作問題を提供し、グループで検討や確認を重ねて、15分の持ち時間内で解答を終える。協同で課題を遂行したり上手く説明したりできれば充足感にたどり着くことができる。達成感や楽しさも得られるであろうし、活動そのものが成功したといえよう。

果たして第1回の結果も、そのようであった。

表4 「協同（グループ）活動の価値」 n = 264

7	積極的に参加できたか	75%
8	メンバーとの協力ができたか	77%
9	協同学習の良さを感じる事ができたか	79%

ベネッセ教育総合研究所『第2回大学生の学習・生活実態調査報告書』（2012）の「大学教育に対する選好（全体）」（p. 11）における2008年と2012年の比較例では、「教員が知識・技術を教える講義形式の授業が多いほうがよい」が82.0%から83.3%に、それに対する項目の「学生が自分で調べて発表する演習形式の授業が多いほうがよい」が18.0%から16.7%と出ている。また、学生生活においても「大学の教員が指導・支援するほうがよい」が15.3%から30.0%に増え、それに対して、「学生生活については、学生の自主性に任せるほうがよい」は、84.7%から70.0%に減じている。表4の結果は講義と演習を比べたわけではないが、ベネッセにあるように、学びに対して受動的で意欲の低い学生が増えている今日的状況であっても、この取り組み結果が示したのは、主体性に委ねてグループ（社会）作りに参画する意義を学生が有意味に感じ取っているということであろう。eラーニングの事前学習も教

師役の問題作成も学生の課外に任せているので、学習法担当教員<sup>16)</sup>の多くの反応は、「ちゃんとやれるのか」と不安視する声から始まった。ところが、直前には「楽しみだ」に移り、授業後は「結構やれていた」「楽しそうだった」が随分聞かれた。期待したものの思うように成果を確認できなかった昨年度までとは、様相が好転した。大島・池田・大場・加納・高橋・岩田（2005/2014）の「互いに学ぶということは、社会的関係（人間関係）を作っていく場作りでもあります。つまり、ピア活動による学習は、学習仲間とともに学習環境を作る行為であり、同時にそれ自体が現実場面における社会実践でもあると言えます」（『ピアで学ぶ大学生の日本語表現 [第2版]』p. 4）ということの体験につながったとも考えられようか。グループという社会的単位の中での活動を要請されたときに、学生は言語による外化の不可欠性を確実に体験しその意義も感じ取ったといえる。

#### 4.4. 「自律学習力」へのステップ

最後のアンケート項目10～12の表5結果において、学生の率直な実態が浮かび上がった。

まず、表3の項目6の「説明力」と合わせて表5の項目10の「Time Management 能力」が50%を切っているのが目に付く。しかし、「Time Management 能力」に関しては、外注の「日本語添削指導」（学習法科目内）でも意識化させているし、「説明力」も学生に場数を踏ませることで手ごたえを得ることができていくであろうと思っている。本稿の締め切りの9月末には間に合わないが、残りの秋学期授業での日本語と数学2回ずつの「協同学習」の中でさらなる意識化を図りながら検討を加え、改めて結果を判断したい。学習法担当者15名を核とするFDで教員間の意見交換の設定も準備をしている。

表5 「自律学習（目的意識を明確にした主体的な学びの態度）の価値」 n = 264

10	（計画遂行のために時間を調整する）Time Management 能力はどうだったか	47%
11	知識や教養力の弱い部分、今後の課題として学習すべき部分の自覚ができたか	72%
12	これからも意欲的にeラーニングを継続する決意に至っているか	57%

難題は、最後の項目「eラーニング継続の決意」であろう。想定以上の数値を出してはいるものの、理想どおりとはいかない。これに関しては、これまでの実践を重ねてきた経験から、やはり「仕掛け（教授法での工夫）」が必要であろうと考えている。学生実態を把握しているにもかかわらず、手を拱いているだけでは、教育内容を提供する側の責任放棄ということになる。学生が「気づき」を自覚し、行動を変え、それぞれの成長につながる機会を得ることができるかどうかは、教員側の、一方的とは言わないまでも、授業内容の工夫にかかっている面が大きいと思われる。その証左の一例が今回の取り組みであった。留学生の日本語教育において梅田（2007）に「学習者の自律性を重視した教師の役割」についての論究

があるが、教育を担っている立場での自負でいばなおさら、学生の主体性を育てるという今日的意義に向き合って不断の変革の意思が必要となろう。これに関しては最終章でまとめたい。今回、教師役学生の中には、レベル上位の「漢字の読み」の「桧皮葺（の屋根）」ということの説明に写真を用意していた学生もいたし、日本語eラーニングの7分野1～10レベルの1400問全部をやりきった学生がいたことも付記しておきたい。

## 5. 「自律学習力」拡充への今後の戦略

3年間の試行錯誤から、「反転授業をベースとする協同学習」の形態はおよそ最終手段に近いとも考えている。守山・二階堂（2005）にはペア・ワークからグループワークへと連続させる取り組みの実践があるが、これも今後の参考となろう。溝上（2014/2015）は「個人の理解を個人的にだけ確認する」のではなく「個人の理解を社会的に位置づける」（p. 80）ことによって「知識の共有化や広がり」を得られるとし、杉江（2011/2014）も『協同学習入門』で「主体的で自律的な学びの構え、確かに幅広い知的習得、仲間と共に問題解決に向かうことのできる対人技能、さらには、他者を尊重する民主的な態度、といった「学力」を効果的に身につけていく」（p. 1）ための「基本的な考え方」が即ち「協同学習」であると説く。いずれにしても、「反転授業」に加えて「協同」を取り入れた今回の工夫が「自律学習力」につながることに一定の確信を持つことができるのではないか。

大学の大衆化とともに、大学での授業が「教える」から「学ぶ」へと舵を切って久しい。野口（2009）は、（大学での学びは）「自分から主体的に物事に取り組み、本を読み、自分の力で考えることが求められる。…（中略）…一つは読書経験がほとんどないために、新書レベルの読書にも困難を抱える場合が多く、本の内容の理解も覚束ない。その結果自分の考えを展開してレポートを書き上げるのが難しくなっていることがあげられる。第二に、興味や関心が自分と周りだけに閉じていて、他者や社会に広がっていかない学生も多い。また抽象的に概念的に物事を考える志向も乏しい」とする。この壁を打破していくには、学生が主体性を持って自らの学びを育てることを基本に据え、その実現のために、教員間、あるいは、大学間での交流・研鑽によってできるだけ総力を結集することである。一方でまた、教員側にも現実の壁がある。実際、初年次教育など専門外の授業科目に対しては、教員は時間と労力を充分にかけられない。煩雑な雑務も抱えている。が、大学は専門知識の教育機関であると同時に、とりわけ1年次は、学生のアイデンティティや自立を獲得するためのモラトリアム期間であることを慮るならば、「学生相互が刺激・啓発しあえ互いの視野を広げ自他を大切にしながら生きる力の基盤を培う」ことを目的とする今回の試みは、学生にとって有効であることの証左となり得たと考えられるし、学部教員全体の可能な限りの理解と協力を



得て一様に推し進めてきている点でも、「学士力」総体の礎に確実につながると言えるのではないか。

## 注

- 1) 旧学習指導要領【高等学校】は、現行の大学1年生（2015年度入学）までを拘束。
- 2) 千歳科学技術大学を本拠校に、北から北星学園大学、桜の聖母短期大学、創価大学、山梨大学、愛知大学、愛媛大学、佐賀大学の8大学。
- 3) 数学は高大連携での千歳科学技術大学提供のSPI非言語（数学）を、英語はアルク社の教材を奨励している。
- 4) 『学習法2015』のp.16「日本語e-learning進捗表」にも、「入学時までには到達しているのが望ましいレベル」として載せている。プレイスメントテストはその範囲で別途に作成している。
- 5) 『学習法2015』p.9には、「…（前略）…大学生活をスタートする時点で、一人ひとりの状況がどうであるのか自分の立ち位置を知り、今後の取り組みにつなげてもらうための内容となっています。各教科のどの分野がどのような状況であるのか、皆さん自身の『気づき』のためのものです。結果は、一人ひとりへのコメントと共に返却されます。（2年の初めに『到達度テスト』を実施し、e-learningなどでの学習成果を自己検証していきます。）」（湯川、尼崎、中崎）としている。
- 6) 『文部科学省大学間連携共同教育推進事業 学士力養成のための共通基盤システムを活用した主体的学びの促進 平成24年度事業実施報告書』のp.72「資料1」より。
- 7) 同上のp.84「資料13」より。
- 8) 同上のp.81「資料10（文責中崎）」より。
- 9) 日本語は 1. 学習を進める上でのリテラシー力・論理力・表現力の礎を築くために必要な言語 2. キャリア構築のためのパフォーマンス（説明、説得、プレゼン等）の必須アイテム 3. 生涯を通しての生活言語であり、従って、人間関係をつくり上げるために不可欠な言語と書く。
- 10) 『文部科学省大学間連携共同教育推進事業 学士力養成のための共通基盤システムを活用した主体的学びの促進 平成25年度事業実施報告書』のp.102の資料集や中崎（2014）p.62。
- 11) 「短文読解」の文章は全て愛知大学の教職員の手によるものであり、出題仕様にするため内容に手を加えることも含めて使用の了解を取っている。
- 12) 「定義」はいずれも辞書を参考にした。「解説」は解答する時には画面上に出てこない。
- 13) 注6)のp.7より。
- 14) 2014年度末の学習法アンケートで日本語も数学も16名（アンケート提出者（学年）のうちの8%）が「利用した」「まあまあ利用した」と答えた。
- 15) アクティブラーニングの図としてよく引用される。『アクティブラーニングでなぜ学生が成長するのか』（河合塾編2011）p.12より。
- 16) 愛知大学地域政策学部では、1年次270名ぐらいの学生に対し15のクラスを設定し様々な専門を有する教員が「学習法」を受け持つ。少人数教育は2年次「研究法」3、4年次「ゼミナール」へと展開される。



## 資料

資料(1) 卒業時の最終到達と1年次の進捗を示した「進捗表」の一部

	到達目標	1年次後期学習目標	1年次前期学習目標
運用のための基礎力の定着	漢字読み	社会生活において使用される漢字を読む力	漢字検定準1級程度の漢字をある程度読むことができる [レベル7]
	漢字書き	社会生活において使用される漢字を書く力	漢字検定2級程度の漢字をある程度書くことができる [レベル6, 7]
	四字熟語	四字熟語の意味を理解し、用いたり書いたりする力	四字熟語の意味をある程度理解し、漢字で書くことができる [レベル5~7]
	語義	語の意味を理解し、適切に使用する力	日本語検定2級程度の語の意味を文脈に応じて理解し、使用することができる [レベル6, 7]
	成句・ことわざ	成句・ことわざの意味を理解し、適切に使用する力	色彩や動物関連の成句・汎用的なことわざの意味を理解し、文脈に応じて使い分けることができる [レベル6, 7]
	文法・敬語	文法・敬語の表現の働きを理解し、適切に使用する力	文法(受身・可能・使役)の表現の働きをある程度理解し、文脈に応じて使い分けることができる [レベル7]
読解の育成	短文読解	短い文章を論理的思考に基づき理解する力	既知知識と照らし合わせながら、短文を読むことができる [レベル6, 7]

資料(2) プレイメントテストの範囲

	内 容
漢字読み	常用漢字の読みができる
漢字書き	教育漢字が書ける
四字熟語	数字を用いた四字熟語を理解し使える
語義	ジュニア版レベルの書籍の語彙を理解し使える
ことわざ・成句	基本的な身体関連の成句・ことわざの意味を理解し使い分けられる
表記・表現・文法	「送り仮名の付け方」「現代仮名遣い」が正確にできる
短文読解	情報を整理しながら比較的平易な短文を読むことができる

資料(3) 日本語eラーニング構成表

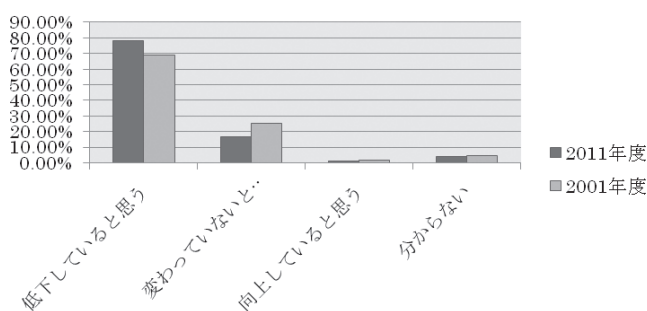
7分類	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7	レベル8	レベル9	レベル10	問題数
読み	訓読み	音読み	一般	一般	一般	一般	一般	生活・経済	社会・政治	熟語・慣用句	200
書き	一般	一般	一般	一般・同音異字	一般・同音異字	同訓異字	同音異義語	同音異義語	略語	3文字・5文字の熟語	200
四字熟語	数字関連	数字関連	心身語彙関連	心身語彙関連	同文字関連	一般	一般	相対関係語	一般	一般	200
語義	主要品詞一般	主要品詞一般	主要品詞一般	主要品詞一般	主要品詞一般	名詞	動詞	類義語	接頭辞	類義語	200
ことわざ成句	身体関連	身体関連	身体関連	身体関連	身体関連	色彩関連	動物関連	動物と一般	一般	一般	200
表記・表現・文法(敬語等)	カナ・四仮名	数字・長音	数字関連表現	送り仮名	授受表現	授受・受身等	使役可能敬語	敬意表現	敬意・手紙文	敬意表現超級	200
短文読解	4文章20問	4文章20問	4文章20問	4文章20問	4文章20問	4文章20問	4文章20問	4文題20問	4文章20問	4文章20問	200
計	140問	140問	140問	140問	140問	140問	140問	140問	140問	140問	1400

資料(4) 日本語eラーニングの手引き {一部}

あなたの日本語、大丈夫？

就職試験で、今、特に話題になっているのは、「読解力」！「計算問題の正答率は変わらないが、読解力を問う文章題の正答率が最近落ち込んでいる」（中部地方の自動車部品メーカー談）。下は「文化庁」の最新の調査結果です。

〈読解力調査2011年と2001年の比較〉



「読解力」の基礎となる「ことば」の問題も深刻！ 取り違えていませんか？

(問題) 左と右、どちらが正解ですか。%値は、それを正解とした全国調査結果（文化庁）。

- (1) 「本心でない上辺だけの巧みな言葉」：口先三寸 (56.7%) vs 舌先三寸 (23.3%)
- (2) 「ひっきりなしに続くさま」：のべつくまなし (32.1%) vs のべつまくなし (42.8%)

(3) 「快く承諾すること」：一つ返事 (46.4%) vs 二つ返事 (42.9%)  
残念なことに、(1) と (3) は正解者の方が「少ない」のです。

---

「敬語力」はどうでしょうか。縦社会では、上司と対話するための「武器」です。「武器」を手に入れて上司とも臆せず話しましょう。次の下線部の言い方で適切なものは1個だけです。他はなぜ不適切ですか。

- 1 「先生、お昼は研究室におられますか」
- 2 「先生がお書きになられたものですか。お上手ですね。」
- 3 「部長がおっしゃられたとおりです」
- 4 「社長もそのように申されました」
- 5 「お客様、お気づきの点は何なりとお申し出くださいませ」
- 6 (客に) 「お気をつけてお帰り下さい」
- 7 (お店の広告) 「お求めやすい値段にいたしました」
- 8 (駅のアナウンス) 「○○さん、おりましたらご連絡ください」
- 9 (駅員が) 「この切符はご利用できません」
- 10 (駅員が) 「危険ですからご注意ください」

#### 資料(5) 日本語「教師役」の4項目評価表

- \* 評価項目
1. グループ内に受身的なメンバーを出さない工夫
  2. 答え合わせだけにならない工夫
  3. 分かりやすく説明できる工夫
  4. 時間を余した場合の対応の工夫

- \* 「メンバー」の評価は、以下の点で目立って良好な場合に「備考欄」に氏名とともに。
- 配布された問題をよく理解ししっかり答えられる
  - 教師役に適切な質問ができる
  - 他のメンバーと協働しながら集中して取り組める

#### 引用・参考文献

- 梅田康子2005 「学習者の自律性を重視した日本語教育コースにおける教師の役割——学部留学生に対する自律学習コース展開の可能性を探る——」『言語と文化』第12号 愛知大学語学教育研究室
- 大島・池田・大場・加納・高橋・岩田2005/2014 『ピアで学ぶ大学生の日本語表現 [第2版]』ひつじ書房
- 太田信夫・多賀秀継編著2000/2011. 6刷 『記憶研究の最前線』北大路書房

eラーニングの「反転授業」をベースとした「協同学習」の試み

- 北原保雄2003/2010. 8刷『明鏡国語辞典携帯版』大修館書店
- 杉江修治2011/2014『協同学習入門』ナカニシヤ出版
- 大学間連携共同教育推進事業「学士力養成のための共通基盤システムを活用した主体的学びの促進」『平成24年度事業実施報告書』
- 大学間連携共同教育推進事業「学士力養成のための共通基盤システムを活用した主体的学びの促進」『平成25年度事業実施報告書』
- 中崎温子2014「地域政策学部のe-learningの現状分析と課題—『大学間連携共同教育推進事業』の歩みと結合させて—」地域政策学ジャーナル 第4巻第1号（通巻第6号）愛知大学地域政策学部地域政策学センター
- 中崎温子監修・共編著2014『学習法2014』愛知大学地域政策学部
- 中崎温子監修・共編著2015『学習法2015』愛知大学地域政策学部
- 新村出編2008『広辞苑第六版』岩波書店
- 野口勝三2009「大学における日本語リテラシー教育—対話関係を中核とした『考える』の実践」『日本語学2月号』vol. 28-2 p. 14 明治書院
- 日本語教育学会編2005『新版日本語教育辞典』大修館書店
- 広瀬正宜・庄司香久子1996『日本語学習使い分け辞典』講談社
- 溝上慎一2014/2015. 2刷『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂
- 守山恵子・二階堂整2015「福岡女学院大学メディア・コミュニケーション学科における初年次教育の試み（2）」福岡女学院大学紀要 人文学部編 第25号
- 柳沢好昭・石井恵理子監修1998『日本語教育重要用語1000』国立国語研究所監
- ベネッセ教育総合研究所2012『第2回大学生の学習・生活実態調査報告書』[http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/daigaku\\_jittai/2012/dai/index.html](http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/daigaku_jittai/2012/dai/index.html)